

これは、夜間や休日の目安です。平日の昼間の場合は早めに受診しましょう。

やけどをしたとき

すぐに流水(水道水)で10分以上冷やします。(下記ワンポイントアドバイス参照)

※ただし、広範囲(片腕や片足全部等)のやけどは、冷やさずに、大至急救急車を呼んで下さい!

☐ 範囲が狭く、赤いだけで水ぶくれ(水ほう)にはなっていない

☐ やけどした範囲が、子どもの手のひらよりも広い

☐ 水ぶくれ(水ほう)ができています

☐ 皮膚が黒くなったり、白くなったりしている

☐ 全身又は広範囲のやけど
(例：片腕や片足の全部)

自宅で様子を見ましょう!
翌日、かかりつけ医へ

ひとつでもあてはまるときは
かかりつけ医へ

不在の場合は、

ひとつでもあてはまるときは
救急車を呼びましょう!



●日曜・祝日(9時～17時)…… **日曜祝日在宅当番医へ**

●夜間(19時～22時)… **日南市初期夜間急病センターへ** (☎0987-23-9999)

※日曜・祝日は6カ月未満児の対応もできます。

※平日は、6カ月未満児の対応ができないため、県立日南病院(☎0987-23-3111)にご相談ください。



ワンポイントアドバイス



やけどは、0～4歳児に多く、熱湯によるものが最も起こりやすいです。また、使い捨てカイロやぬるい湯たんぽでも長時間あたると低温やけどになることがありますので注意してください。

家庭で対処すること

●冷やし方(必ず10分以上冷やすこと)

<手、足>……患部に直接勢よく水をかけると、水ぶくれ(水ほう)が破れてしまうので、洗面器に水道水を流し入れながら、患部を浸して冷やします。

<顔、頭>……シャワーの水や濡れタオルで冷やします。鼻や口のそばで呼吸のしづらい場所のときは、こまめに冷えたタオルをとり替えながら冷やします。

※熱いお風呂に落ちたときなど服を着たままやけどした場合は、服を着たまま冷やします。

最低20～30分以上、痛みが消えるのを目途に冷やしましょう。

注意すること

●水ぶくれ(水ほう)はつぶさないようにして、受診するまでは何も塗らないでください。

●油やアロエを塗るなどの民間療法はしないでください。